

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	ジョイ村松		
所在地	静岡県清水区村松原1丁目7-16		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	平成30年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2274201876-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2274201876-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>午後に散歩や体操、歌のレクリエーション等を行って、活気のある生活を送っていただく様にしているところ。</p>
-----------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「研修でやってみて使えるかもと思って」と課題整理総括表を導入したり、「市の防災訓練で試食したビスケットの飲み込みが難儀だった」ことでビスコやカロリーメイト、ドロップ缶等高齢者に寄り添った選択がみられ、新しく発見があるれば速やかに実現させています。特に平日開催で家族に参加してもらえない運営推進会議は、開催資料や議事録等書面化を丁寧に取り組む家族に届け、6回の内1回は日曜日開催として9名の利用者に12名の家族が集う結果に結ばれています。職員人数が足りないなか、職員間で助け合い、月1回は外食が実現できていることも評価に値します。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、職員は共有して実践につなげている。	経営理念は職員の更衣室に掲示、事業所の運営理念は申し送り唱和することで意識の継続を図っています。前回の外部評価を通じて運営理念をつくるに至り、「なじみの暮らし」の実現に日々取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	市が主催した防災訓練に、一部入居者も参加できた。	地域との関係進捗はみられないものの、市主催の防災訓練には利用者2名と出かけることはおこなっており、近くの清水第三中学校や東海大学からの職場体験実習も受け入れています。	次の3点を期待します。①自治会長等を通じて地域のどんど焼き等の行事を入手し、事業所の年間企画に予め組込む ②生き生きシニアサポーター受入の登録 ③組長会議への参加
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	それでも、地域との交流が浅いと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っているが、地域行事に関する情報は得られていない。	自治会長、地域包括支援センター、民生委員と少ないながらも少数精鋭なことが議事録から視えます。年間予定表も予め用意してメンバー増加に努め、内1回は日曜日の家族会併催として家族出席が得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年の運営推進会議の年間開催日程と次回開催案内を市役所へ提出した。	運営推進会議の案内、議事録を市役所にはFAXで都度届けており、集団指導も必ず出席しています。来期は生き生きシニアサポーター、介護相談員の受入事業所となれるよう、連携を進める予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関施錠もなく、拘束が必要な症状の利用者も現在いません。職員全体の知識には凸凹があることは否めませんが、それでも気づいたことは管理者やリーダー的な職員が都度指導をおこなっています。	(4)の市との連携にも係る、市役所主催の無料研修会への参加を検討することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学ぶ機会が作れていないが、職員全員が防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会も活用も出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、注意事項も含め十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から要望があった時は、各職員に申し送りケアに反映させている。	家族会では流しソーメンや稲荷寿司でもてなし、9名の利用者に家族が12名集うという盛況ぶりです。写真が20枚余り入った「ジョイ村松だより」とともに、個々の担当職員が利用状況報告書を届け情報共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や毎朝の申し送りの中で、職員の意見や提案があった時は、即決せずには主任と相談してから結論を出している。	スタッフ会議、申し送りと意見を言える場もあり、外出や行事の企画書も職員から頻繁に出ています。レクリエーションで使うカルタを購入したり、入用の物が職員の善意で家宅から持ち込まれることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、各職員に勤務の査定を行い、良い評価を得た者は給料や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が確保できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行って、様子を聞いている。入居した段階で担当の職員を決めている。他の職員もコミュニケーションを深めて、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった時は、施設を見学する前に一度家族と面談を行い、本人の様子や困ったことを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居中に本人の様子が変わった場合に必要の支援を考え、部長にも助言を求めることがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活の中で、お手伝いできる場所があった時は入居者に行ってもらっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族が面会された時もコミュニケーションをとって、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との支援は出来ていないが、正月に外出され近親者等と一緒に食事を楽しまれた入居者もいた。	ティータイムの紅茶に対して「緑茶がいい」といった声に応えたり、時節行事や祝いの席にはビールを希望者に提供することもあります。家族の面会頻度には差がありますが、通院介助で月1回は会えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々、入居者同士でもめてしまうため、その人達には距離をとってもらい、関係が悪化しないよう職員が見守る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると、本人・家族へのフォローが無くなってしまふ。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個人の思いは尊重しつつ、困難な時は職員間でその方に適したアプローチを検討する。	入浴をはじめマンツーマンでの関わりで聞き取れたことは介護記録に記載して変化を掴み、介護計画の更新時には利用者本人と家族に改めて確認することを旨としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、入居者が当施設における生活パターンを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、入居者が当施設における生活パターンを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度行うスタッフ会議の中で本人の課題を挙げ、それに対して対策を立てて対応している。	課題整理総括表で課題を整理していくことが容易となっており、月1回のスタッフ会議での職員意見と介護記録を以て、介護支援専門員(計画作成担当者兼務)が介護計画書を作成しています。	現状作成に係る精度には問題はないものの、本件への職員理解が標準化されるよう学びの機会をつくれたら、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を見直す時は、家族のニーズを確認してから行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子に応じた支援を行っているが、サービスの多機能化まで発展できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働が図れていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者によって主治医が違うため、状態が変わった時は家族の方へ受診を依頼する。家族が対応できない時は、施設長が対応している。	在宅の頃の医師を全員が継続し、「薬が減ってきた…」といったことを家族に連絡すると家族が受診対応くださっており、医療情報は口頭で聞き取り、申し送りノートで情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調面で不明な点があった場合は、看護職員と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後や退院前に本人と面会を行い、入院中の様子を看護師から聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約の時点で、重度化した場合や終末期について説明している。	「此处では看取りはおこなわない」ことは契約時に家族に伝え、合意形成できています。状態変化に応じて家族と話し合い、移設先を検討したうえで、事業所が移設手続きを支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を実施してない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	去年の3月に夜間想定避難訓練を実施した。 去年の11月に、デイサービスと合同で防災訓練を実施した。	併設のデイサービスと合同での施設総合訓練もおこなうほか、夜間想定では「管理者が自宅から自転車で何分だから…」と具体的に段取りして、課題を掴むことができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごく一部の職員が、ごく一部の入居者に対し不適切な声掛けをしていることがある。	接遇研修を内部でおこなったことはありませんが、職員に代表で外部研修に行ってもらったことは過去にはあります。学んだときは向上しますが、継続しないことを課題としています。	職員の中に利用者への好き嫌いがあらわになる人を視認しました。改善が難しいため現状のままなことは察しますが、今後の進捗を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることは自分でしていただくよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重したアプローチをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、入居者に衣類の選択を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者が出来る範囲で手伝いをしてもらっている。	ご飯とみそ汁は職員手作りですが、昼食の惣菜は業者搬入を利用しています。食事前はパタカラ体操をおこない、食事には職員も間に入り、「このお豆柔らかく炊けているね～」と声をかけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録に残し、その時に応じて甘い飲み物や紅茶、コーヒー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをしてもらうよう声をかけたり、職員が介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な入居者に対しては、定時に誘導をしている。出来るところは本人にやらせてもらう。	バイタルや水分摂取量も併に記載されたケアチェック表に因って排泄支援に取組み、夜間は2名がオムツ使用なものの、日中は100歳を迎える人も含む全員が布パンツまたはリハパンとパットで過ごさせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医から処方された下剤を内服している。排便の無い入居者には、朝食時に牛乳を飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行う時間とメンバーは固定されている。	入浴は週2日を目安としています。1名浴槽をまたぐのが怖いとのことからシャワーチェアと足浴対応ですが、もともと浴室に暖房が入る設計となっていて、寒い冬の日も快適なバスタイムが過ごさせています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠気が見られた時は、本人に確認してから休息をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医がいる病院から薬の説明書をいただき、用法・容量を守るよう管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日に気分転換を図れるよう、日中に外へ散歩をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の会議の中で外出できるよう企画している。家族も、入居者の外出支援に関わることがある。	毎朝スーパーマーケットに買い出しに出ており、自立歩行可能な利用者は同伴しています。併設のデイサービスの車輛を借りることができるので、大型ショッピングセンターやファミリーレストラン等地域の商業施設へのドライブ外出が毎月のようにあります。	散歩を生活の中に位置付けることが難しいようですので、外気浴と室内の歩行訓練について検討されると、良いと思います。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない入居者については、事務所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をしたいという希望があった時は、施設長が仲介して受話器を渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棚に目隠しカーテンを付けた。 リビングに季節感はないが、入居者の動線に物を置かないような配慮をしている。	週1回は消毒剤を使い、夜勤者がモップ拭きと手すり・椅子拭きを毎日おこなっています。事業所のエントランスや植栽、蜘蛛の巣取りは管理者が都度片付けていて、整えられています。	天井に近い棚にエアコンやテレビのリモコンなどが無造作に置かれていて、落ちる危険性を感じます。是正を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるよう、席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の契約で、収納品やベッドを持って来ていただくよう頼んでいる。内容は家族に任せている。	予め用意されているのはエアコンのみで、カーテンも防煙仕様を家族に用意してもらっていて大半が持ち込みの為、孫が届けたのか愛らしいキャラクターグッズや鉢植えなども加わりその人らしい居室と成っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがすぐにわかるよう、扉に「トイレ」という紙を貼っている。 居室の表札にも、名前を大きく表示している。 廊下やトイレ、浴室に手すりを設置していて、移動の補助として使っている。		